

授業科目名・形態	ソーシャルワーク論Ⅲ 講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	田中 誠	開講期	2年 後期 単位数 2

### 【授業の主題】

本講義ではソーシャルワーク実践の土台となる、相談援助における人と環境との相互作用に関する理論とジェネラリストソーシャルワークについての基礎を学ぶ。その上で、相談援助の対象となる多様なクライアントが抱える多様な問題に対する様々な実践モデルとアプローチの基礎を学ぶ。

### 【到達目標】

- 1) クライアントへの働きかけを行うソーシャルワーク実践の基礎についてソーシャルワークの定義と枠組み、構造と機能から理解できる
- 2) クライアントの違いにより働きかけの方法を変えるソーシャルワーク実践の応用について、ソーシャルワーク実践の系譜から理解できる。

### 【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 相談援助とは①（ソーシャルワークの定義と枠組み）
- 第 3回 相談援助とは②（ソーシャルワークを構成する要素とソーシャルワークの職場）
- 第 4回 相談援助の構造と機能①（ソーシャルワークの構造）
- 第 5回 相談援助の構造と機能②（ソーシャルワークにおけるニーズと機能）
- 第 6回 人と環境の相互作用①（一般システム論）
- 第 7回 人と環境の相互作用②（サイバネテックス、自己組織論、その他）
- 第 8回 様々な実践モデルとアプローチ（治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル）
- 第 9回 第9回～15回の授業準備
- 第10回 心理社会的アプローチ、機能的アプローチ
- 第11回 問題解決アプローチ、課題中心アプローチ
- 第12回 危機介入アプローチ、行動変容アプローチ
- 第13回 エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ
- 第14回 認知アプローチ、解決志向アプローチ、その他アプローチ
- 第15回 スーパービジョンとコンサルテーション

### 【授業実施方法】 講義

【授業準備】 あらかじめ教科書によく目を通しておくこと。

【主な関連する科目】 ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅱ、Ⅳ～Ⅵ 等

### 【教科書等】

- 新社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版 中央法規
- 新社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版 中央法規

### 【参考文献】

講義の中で紹介する。

### 【成績評価方法】

試験 80%、授業態度 20%で評価する。

### 【学生へのメッセージ】

様々なアプローチを学ぶ機会となるが、1つのアプローチでは援助は困難であり、各アプローチの優位側面を組み合わせる援助することが大切である。したがって、様々なアプローチの特徴を理解してほしい。